

彼方より

中井 英夫

潮 出 版 社

中井 英夫（なかいひでお） 作家。1922年東京に生れる。著書『虚無への供物』（講談社）『黒衣の短歌史』（潮出版社）『中井英夫作品集』（三一書房）『見知らぬ旗』（河出書房新社）『幻想博物館』（平凡社）『眠るひとへの哀歌』（思潮社）『悪夢の骨牌』（平凡社）『黒鳥の囁き』（大和書房）『黒鳥の旅もしくは幻想庭園』（潮出版社）等。

増補
新装 彼方より

昭和 49 年 9 月 20 日 印 刷
昭和 49 年 9 月 25 日 発 行

著 者 中 井 英 夫
発行者 島 津 矩 久

東京 都 新宿 区 南 元 町 14-1
発行所 株式会社 潮 出 版 社
電話(357)7111(代) 振替東京61090
〒 160

印刷 第一印刷 製本 鈴木製本

落丁・乱丁本はお取替えいたします。
© H. Nakai 1974 Printed in Japan

彼方より
戦中日記・初期詩編

目次

I 戦前詩編

短歌	7
かげらふの恋	8
羽虫	9
貧しき子の夢・抄	10
青きかなしみ	11
毒蛇	12
未亡人の夜	14
三者	16
ひねくれもの	16
登場	17
己惚	18
白い犬	20
時を送る唄	21
地球追放	22
黒猫に	29
罪の日	30
水星の騎士	30
秘密	32
塔	32
あしあと	33
酒場にて	34
残骸	36
四月の会話	37
地平線のうた	38
少年の夜	38

果樹園断章

兄

ある序詩

囚人の歌

涙のあとに

ある家の夜

小さな家の火事

わが眼のうた

速達

他人に

ちちははとその子のうた

二月の或夜に

海を渡り終へた基督

ひぐれと子供達

蟻の詩人

五月を送るうた

断章

谷底の詩

矢

あとがき

II 戦中日記

彼方より

卷末小記

解説・出口裕弘

39

40

41

42

43

45

46

47

48

50

51

52

57

58

60

62

64

71

72

72

74

77

169

175

水星の騎士へ戦前詩編▽

水星の騎士の手套の香ふ夜
わたしの歌は生誕する

● 一九三六年

短唱

東の間の己がいのちを知るならむ草かげらふの恋は鋭き

わが恋はとめどもなくて己が絵のをみなに寄するあつき
くちづけ

燈を消して星みるときに人の世のわれには遠き恋知りそ
めぬ

かげらふの恋

雨やめば――

とて雨はやまず
はかなきのぞみ

夏ゆけば――

とてみちかき魂たま
かそけいのち

この宵に――

とて夜はみちかく
そらはしらじら

*
5月

羽虫

夜になると――

わたしの心にしたひよるあまたの虫がある

わたしはそのうちから恋の虫をさがす

希望も義理も名誉も金も

はたいのちをもすてゝ私は恋の羽虫をさがす

*
5月

● 一九三七年

「貧しき子の夢」抄

まあだうすぐらい

うすあかりつてきびしいもんだねえ
だんだんに夜があけてくよ

いまにだれか

さう、きつと美しい人にちがひない
やつてきていふとおもふよ

——王子さま、つて、ね、ね

ね、いまじーつとして

美しい人のくんの待つてんだぜ

ももいろだよ何もかも

な……にもかも——。

青きかなしみ

そはあをきかなしみにして
よごとよごとむねにふるふ
はらひのけはらひのけつつ
またなやむふしどのうちに
ともしびのただひとつあり
おひゆけどそはかげのごと
みはほそくほそくゆれつゝ
うすあをにとほざかりゆく

*
4月

毒蛇

いやとよ その宵に

きよらなる われのこゝろの

かなしくも けがれにそみぬ

さはれいま このはこに

毒へびの その二匹

かなしくも のたうちまはる

いざあけむ 毒蛇のはこを

かのをみな まどかにねぶる

あけがたの へやのうちに

ああいざ かのをみな

もだえつゝ さけぶをきかむ

さはれ女よ

あけがたの光のうちに

しらじらの光のうちに

南国の毒蛇とともに

*
4
月

未亡人の夜

九時・黒天驚絨の時刻

ランプをしまふと

きまつて机の下に

ダイヤの王子が^{ジャッ}おちる

十時・桃色の真珠の時刻

わたしが指輪をみてゐると

「おい」と窓べで誰かが呼ぶ

灯がきえる――

十一時・草双紙の時刻

たいてい浴室^{バス}にゐる

白い蝶々が